

神奈川県立川崎図書館のビジネス支援

神奈川県立川崎図書館 田村行輝

1. ビジネス支援の歴史

開館以来のビジネス支援

川崎図書館は神奈川県立の2番目の図書館として、川崎市川崎区に昭和34年1月に開館。京浜工業地帯に立地する条件を考慮して、開館当初から科学技術・工学関係の資料収集に重点を置き、商工資料室には特許・規格、商工名鑑、カタログ、業界紙などを揃え、「工業図書館」を指向して来た。以後、多少の紆余曲折はあるが基本方針は変わっていない。

平成10年4月、リニューアルオープンにより今まで地域住民にサービスして来た一般図書室を閉鎖して、科学技術・工学に特化した専門図書館として再出発、現在に至っている。

川崎図書館の運営方針・概要

「科学と産業の情報ライブラリー」「科学・産業技術系の専門性の高い情報拠点」としてその名にふさわしい科学技術系の専門資料・情報の収集・整備・保存に努め、県民の資料・情報ニーズに応えていく（平成14年度事業概要、運営方針から抜粋）。

施設としては開館時の建物をそのまま使用、総床面積約3,550㎡。運営にあたる職員として正職員40名非常勤12名。

2. ビジネス支援のための所蔵資料

自然科学・工学系専門図書

自然科学・工学系の学術書、専門図書を中心に206,840冊を所蔵（平成13年度末、規格等を含む）。販売図書のほか官公庁や研究機関で刊行される灰色文献など幅広く収集。

自然科学・工学系専門雑誌

自然科学・工学系の学術専門雑誌を中心に5,233タイトルを所蔵。特に学会協会論文誌、学会講演論文集、企業の技報が充実。

規格

国内規格としてJIS（日本工業規格）の全分野とJIS-TR（日本工業規格標準情報）、団体規格としてJEM（日本電気工業会規格）、JASO（自動車技術会規格）、JEC（電気規格調査会標準規格）など。外国規格としてISO（国際標準化機構規格）のハンドブック、ASTM（米国材料試験協会規格）、DIN（ドイツ連邦規格）のハンドブックなど。その他に国内半導体メーカーのデータブックなども所蔵。

会社史

川崎図書館のコレクションとして会社史・労働組合史・経済団体史11,772点を社史関

覧室で公開。館外貸出も可。現在もきめ細かい収集を継続中。

外国化学文献

日本化学会より洋書約 800 冊、洋雑誌約 140 の寄贈を受けて「外国化学文献コーナー」で公開（一部書庫）。特に雑誌については各国の化学会同士の交換資料なので貴重なものが多い。

CD ROM

科学技術文献速報（JST）雑誌記事索引（国立国会図書館）など 21 タイトルを保有。その他、児童向けの「やさしい科学コーナー」用として 71 タイトルを保有。

産業安全ビデオ・フィルム

産業安全・労働衛生関係を中心にビデオ 334 本、16 ミリフィルム 746 本を保有。

3. ビジネス支援サービスの現状について

在宅利用文献複写サービス

郵送またはファクシミリで文献のコピーを送るサービス。事前登録した継続利用者には迅速な対応が可能。平成 13 年度の利用は郵送 45,581 枚、ファクシミリ 12,321 枚。利用のほとんどが企業関係。

コンテンツシートサービス

希望の雑誌の目次を複写して定期的に送るサービス。

知的所有権センター

特許庁と専用回線で結ばれた「特許電子図書館」1 台。民間データベース「JP - NET」2 台を設置して特許検索に対応。また CD - ROM 版の公告特許公報など 13 タイトルを保有。そのうち継続して受入しているのは商標、意匠など 5 タイトル。また関連図書・雑誌も積極的に収集。

特許検索アドバイザー・検索講習会

特許庁の事業により配置されている特許検索アドバイザーにより水曜日と金曜日の週 2 回、特許電子図書館の検索相談を実施。また月 2 回特許電子図書館の講習会を開催。

発明相談

発明協会神奈川県支部から派遣される弁理士により月 1 回発明相談を開催。

商用データベース（有料）

G - Search、JOIS の 2 種類

インターネット専用パソコン

IT コーナーに 14 台設置、ビジネス関係の利用が多い。今年 7 月よりボランティアグループ「さくらネット」による検索指導を行っている。

主題別文献目録・科学 EYES

『主題別文献目録』は科学技術おける最新の話題についてのテーマ別文献リスト。年 3 回発行。ホームページにも掲載。最近では「ナノテクノロジー」「グリーンケミストリ

ー」「カーボンナノチューブ」「光触媒技術の動向」「超臨界水」など。『科学 EYES』は図書館の館報として年2回発行。特集論文記事と文献リストを掲載。「海洋深層水」「都市と建築のレスタウロ」「ロボット」「ビオトープ」など

集会・行事

毎年「かながわオープンカレッジ」として科学技術・ビジネス関係の講座を開催。昨年は『イタリアの都市と建築』、今年は『今、社史が面白い！ 企業の軌跡と経営革新を読み解く』を開催予定。過去には特許や規格の講座も開催し好評であった。また昨年は小中学生を対象に『きみも未来の発明家 インターネットで学ぶ発明発見』と題してインターネットで特許電子図書館にアクセスし、特許検索を実際に体験して発明発見の歴史を学んでもらうという行事を開催。

神奈川県資料室研究会

神奈川県内を中心とした企業の資料室や県研究機関資料室により構成される団体で事務局を川崎図書館が担当。現在 126 機関が加盟。月例会やレファレンス分科会などで会員の研鑽を図るとともに、複写やレファレンス等を通して企業の資料室を援助し、また資料の寄贈など相互に協力し合っている。

4．ビジネス支援としての課題

経営関係資料の欠如

平成 10 年度のリニューアルの結果、科学技術関係が資料の中心になったので経営関係やマーケット情報などが欠落し総合的なビジネス支援が出来なくなった。

起業家支援の視点の欠如

今までは企業や研究機関をサービス支援の対象にして来たが、起業を志す人への支援という視点には欠けてきたきらいがある。

5．これからの政策研究

神奈川県自治総合研究センターの平成 14 年度一般研究のテーマとして「進化する図書館～市民活動の支援に向けて～」が取り上げられており、市民活動支援・ビジネス活動支援図書館のあり方を研究中である。今年度中に報告書をまとめ、神奈川県に政策提言を行う予定である。そうなれば川崎図書館のビジネス支援についても、より一層充実した内容になると思われる。